

ベトナム女性に日本語

研修中のベトナム人女性たちが目指している、日本語検定合格を手助けをしようと、曾於市大隅の岩川校区公民館の有志がボランティアで勉強会を開いている。研修生らは滞在中に合格できるよう真剣に学んでいる。

大隅・岩川の有志が奉仕指導



研修中の検定合格手助け

同工場では2012年から小学校の本田郁子校長(57)ら研修生を受け入れ現在はら6人が教え、体の各部分の語彙や家族の紹介、漢字や踊りを披露するなど、普など約1時間半学習した。段から交流がある。検定に 研修生たちは「兄弟の数挑戦している研修生がいるを教えてください」「私のと知った公民館の役員らが父はやせています」などと「盛り上げてもらっている 家族の紹介をしたり、習ってお礼に」と、3月から毎週 た漢字をノートに丁寧に書き写したりしていた。木曜、宿舎の集會室で教え

勝山昭一工場長(59)は

検定2級、3級を持ては「日本語を話せない職場帰国後に通訳や日系企業での人見知りしてしまう。言葉に自信を持てれば、ほかの仕事を得やすくなるという。12年に来た研修生には、日本語検定3級がすでに2人おり、10人が次回検定で2級、3級を目指している。勉強会は検定を目指す人向けと、日本語の基礎を覚えたい人向けを隔週で実施。16日は基礎を学ぶ12人に、同公民館の峯元哲男研修部長(83)、副館長で岩川

の友好を深めてもらいたい」と上達を願っている。

ベトナム研修生に日本語を教える岩川校区公民館の有志

曾於市大隅

(園田尚志)